

東急池上線戸越銀座駅

“都市の公共空間に木造を”

木質材料による、列車と乗客を一体に包む駅ホーム空間の実現

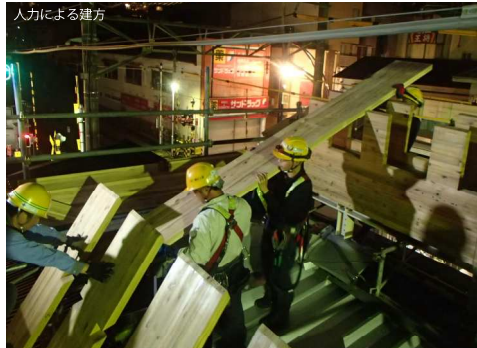
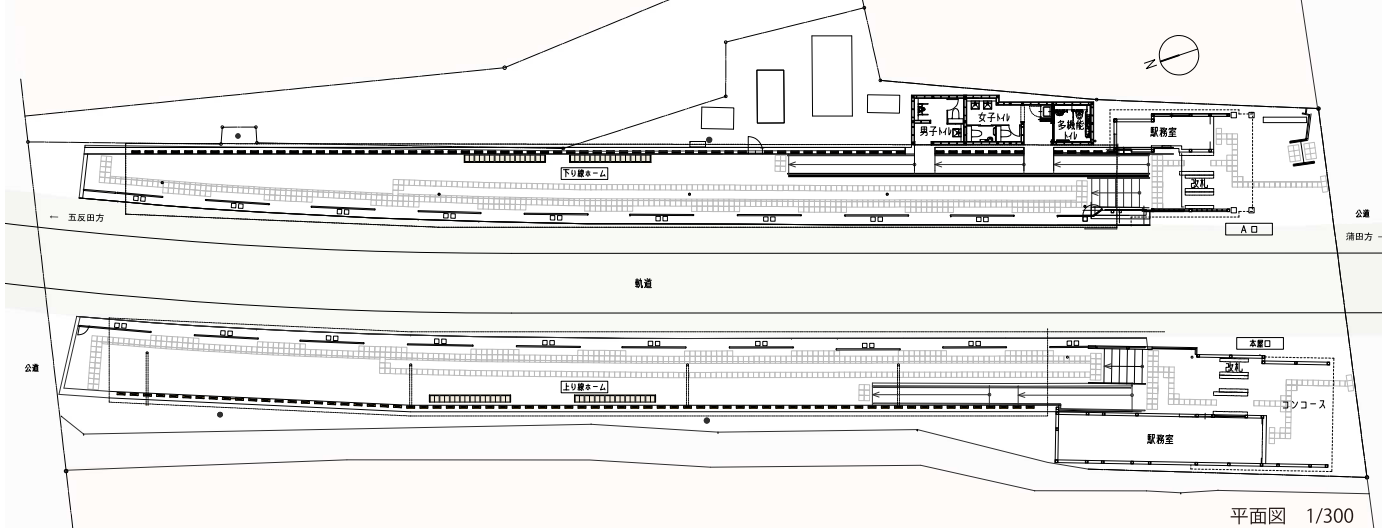
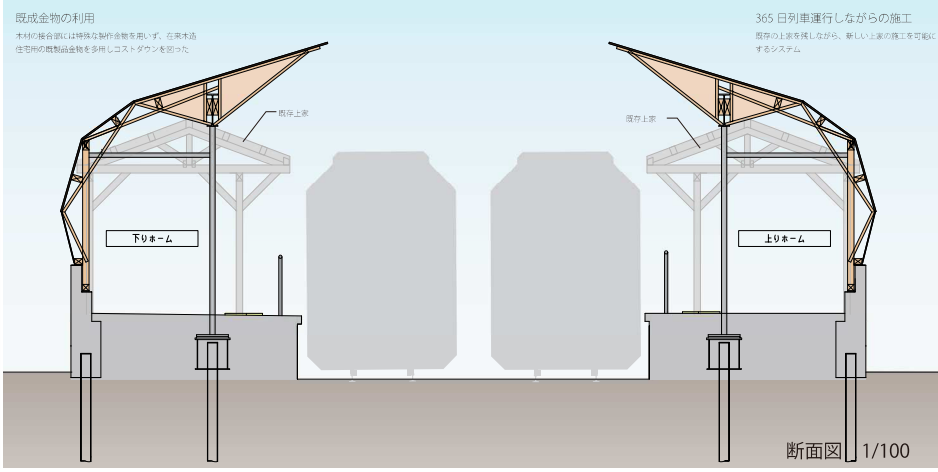
本プロジェクトは、古くから地域住民に親しまれてきた駅の雰囲気や踏襲しつつ、施設の老朽化、東急池上線の沿線価値向上を目的としたリニューアルである。

本施設では、建物が密集するエリアに位置することや、365日列車運行しながらの工事となるなどの鉄道施設特有の施工条件に対応する為、既存の上家を残しながら上部に新しい上家を組み上げ、集成材パネルの嵌合によって一体化された一種のシガーストラスアーチと、鉄骨フレームによるハイブリッドシステムの構法を採用した。既存上家でも採用されていた方杖架構を継承しつつ、現代的な新しい構法へと展開、屋根・壁面一体型フォルムで、軌道とホーム上の空間をやわらかく包み込んでいる。集成材パネルは、軽量かつシンプルな形状とし、限られた施工ヤードで、可能な限り人力で搬入・建方を行えるもの、終電から始発までの限られた時間で、無理なく施工可能な構造システムとした。材を「あらかし」とすることで、木の肌合いやあたたかさを利用者が身近に感じ、経年変化により愛着がわくホーム空間を実現している。

多摩産材（スギ・ヒノキ）を多用、地域産木材の活用を推進した。都市部における多量の炭素貯蔵に貢献する等、木質材料に特有の長所を最大限に活用している。また、「木になるリニューアル」と銘打ち、駅づくりに関する「情報発信」や「オープン化」を重視し、地域とともに駅のリニューアルを竣工させることができた。

基本情報

所在地：東京都品川区
 建築面積：661.19㎡
 延床面積：677.80㎡
 主要構造：木造一部鉄骨造



「多摩の森とつながるツアー」
 地域住民の原産地、製材過程等の見学会参加
 ⇒多摩の森林が様々な工程を経て駅になるまでの流れを一緒に体験し、新しい駅への愛着を深めるとともに、林業に触れることで日本の林業、森林についての環境学習の場となった。



地域と連携したリニューアルプロジェクト “木になるリニューアル”

「想いが実になる木」に寄せられたメッセージで形どられた記念銘板



「既存廃木材を活用した地域貢献」
 約90年間駅を支えたホーム上家の廃木材を再利用
 ⇒ 地域に還元し駅の歴史に愛着をもってもらう (①小学校の工作材料として地域に還元②リニューアル記念時計・キーホルダー等)

改築前の駅舎とホーム上家は約90年前に築造され、地域住民の生活を変えてきた。

既存の駅に使われていた木材の活用